



原子力産業新聞

2012年1月5日
 平成24年(第2604号)
 毎週木曜日発行
 購読料1年前前金(消費税、国内送料込)
 会員 9,500円(1部220円)
 非会員 15,000円(1部350円)
 (当会会員は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895
 電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ <http://www.jaif.or.jp/> メールアドレス shinbun@jaif.or.jp

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

エネ環境戦略策定へ議論本格化

エネ・環境会議が基本方針決定

政府の新成長戦略実現会議(議長＝野田佳彦首相)の下に設置した関係閣僚で構成するエネルギー・環境会議(議長＝古川元久・国家戦略担当)の第五回会合が十二月二十一日に開かれ、コスト等検証委員会の報告書(二面に記事)を了承すると共に、今後の基本方針について決定した。同基本方針では、原子力発電について「世界最高水準の安全基準とその客観的かつ厳格な運用を確保するなど、安全対策を抜本的かつ計画的に立て直す」として、今夏を目途に策定する革新的エネルギー・環境戦略に反映させる。

最安の原発コスト前提

エネ調、原子力委、中環審で検討

今回会議には、エネルギー問題が国家の最重要課題であるとの認識から、藤村修・内閣官房長官も出席した。「エネルギー・環境戦略」に関する選択肢の提示に向けて」と題する基本方針は、①選択肢の提示に向けた基本的な姿勢②原子力政策、エネルギー・ミックス、温暖化対策に

今回のエネ環境戦略の見直しは、東電・福島第一原発の過酷事故の発生が発端であったことから、原発への依存度低減

日立、主要条件で合意

リトアニア原発 今春議定書締結へ

リトアニアのエネルギー省は十二月二十三日、ビサギナス原子力発電所建設の特権契約について、優先交渉企業

原発代替エネを検討

エネ調・基本委 当面のシナリオ

論点整理では、先般の震災・原子力事故を受け、「国民の安全の確保」を最優先に据え、①国民が安心できる持続可能な②「需要サイド」を重視した③「消費者」「生活者」「地域」を重視した④国力を支え世界に貢献する多様な電源・エネルギー源を活用する一を、今後のエネルギー政策の視座に掲げている。

また、十月からの審議で、原子力発電に関しては、事故のリスクやエネルギー安全保障などの観点から、多様な意見が出されたが、これらも別添資料としてまとめている。同委員会では、当面は原子力への依存度低減の代替となる具体的シナリオについて集中的な検討を行うこととしている。

日立および日立ニュークリア・エナジー社は、二〇二〇年の完成を目標とする同計画に対して改良型沸騰水型原子炉(A-BWR)の提供を提案し、昨年七月には同国から出資を伴う受注優先交渉権を獲得していた。



うつくしまふくしま ふるさとカレンダー2012

カレンダー「うつくしまふくしま ふるさとカレンダー2012」を同様の趣旨で作成し、今回は関係自治体を通じた配布事業を展開している。写真はそのカレンダーの表紙を飾る福島県浪江町の「請戸(うけと)漁港出初め式」の様子。毎年一月二日に行われる新春恒例の行事で、前年の水揚げ量が最も多かった漁船を先頭に、大漁旗や日の丸の旗を掲げた漁船が次々に港を出て、沖合で、海の神様にお神酒を捧げて参拝する。岸壁には大勢の見物客が詰めかけ、波しぶきをあげて船出する漁船を歓声を上げながら見守る風景が、かつてここにあった。今年、国の総力をあげて環境修復活動を展開し、昔の美しい田畑や森、海を取り戻し、一日も早く住民が帰還できる自然や社会環境を取り戻し、このような行事が各地で以前と変わらずに見られる日がくることを願う。

1日も早い帰還を願って

美しい自然と地域社会の“絆”再び

日本原子力産業協会は昨年、福島県浜通り地域に関連した四季折々の風景、季節毎のイベント、祭りなどの写真を掲載したカレンダーを作成し、東京電力・福島第一原子力発電所事故に伴い避難されている周辺地住民の方々に配布すると同時に、避難住民の方々の生の声をお聞きし、関係部門にその意見や要望を伝える活動を行ってきた。それに続いて、今年の日がくることを願う。

12月中旬からの出来事

- ・インフラ海外展開会合でインドを議題 (15日)
- ・細野原発相が福島第一で所員と懇談 (17日)
- ・福島県市町村に避難区域再編案を提示 (18日)
- ・JR常磐線の新原ノ町ー相馬間が運転再開(21日)

原産新聞の紙面から

- ◇国内ニュース
 - ・政府が福島事故の収束宣言、除染本格化 (2面)
 - ・政府と東電、福島中長期対策会議発足 (2面)
 - ・コスト検証委が「原発最安」を結論 (2面)
 - ・東芝、米国 STP 増設は「継続審査中」 (7面)
- ◇海外ニュース
 - ・英国の新設計画で2設計に暫定承認発給 (3面)
 - ・アレバ社が2016年までの戦略行動計画 (3面)
 - ・福島後に進展した世界の原子力導入計画 (8面)

世界で最も信頼されている原子力産業情報誌

Nuclear Fuel / ニュークリアー・フューエル

プラッツ・ニュークリアー・フューエルは、全世界の核燃料サイクル情報を網羅した情報誌です。原子力産業界の政策や価格動向について鍵となる情報を、隔週で提供しています。

Nucleonics Week / ニュークレオニクス・ウィーク

1960年の創刊以来、プラッツ・ニュークレオニクス・ウィークは原子力発電業界の意思決定サポートツールとして、業界に不可欠な産業ニュースを正確かつ客観的にお伝えしています。

弊社サービスについてはプラッツ東京オフィスまでお気軽にお問い合わせ下さい。
 営業代表番号(担当:新藤・吉川)/03-4550-8300 Eメール/tokyo@platts.com ホームページ/www.platts.com



プラッツについて

プラッツはニューヨーク証券取引所に上場するマグロー・ヒルカンパニーの一員で、エネルギーや金属市場の情報を配信する世界最大規模を誇る独立系通信社です。